広町緑地・森の会:令和5年 作業報告書 2023年 2月5日 · (日) 2022年度 総会



*総会:管理棟学習室・9:30~11:00*参加者:砂村 望月 本田 中田 石井 酒井*次回作業:2/19七里ユリ

*議題: ①2022 年度振返りを基に 2023 年度予定作成 ②2023 年度予算 ③2023 年度の植樹祭について

*23 年度は総会後に刃研ぎを予定、その試行として11 時終了予定(トンボ池の浚渫作業有、議事進行を速やかに)

*予算:23年度総予算・131,680円:植樹祭など森の会主催事業は原則参加無料とする、但レパートナーズより補助有

・耐用年数が過ぎたヘルメットを新規購入交換するなど、現場の活動に応じ臨機応変に支出

*植樹祭:2022 年度より緑地植栽諸問題は「環境保全委員会」で議事・決定。その結果を理事会が追認・承認することになる。23 年 1/12 の「環境保全委員会」より出されたいろいろな意見を踏まえ、森の会としての、いままでの育林活動により、意志・方針を決定し、浄化センター上 400 ㎡の植栽計画を論議し煮詰め基本案を作成する

※森の会は 15年間に及ぶ育林の実績により決定: 1 人手が入らない→ヤブ化→生物多様性が失われる 2 多様性をつくるには 3 里山の魅力を知ってもらう場にする。そして「定款第 3 条」(2)子どもたちに自然のすばらしさをより知ってもらう場に、また*本年までの森の会・緑の学習会を踏まえて、森の会は 2023 年後の植栽について「今ある木本を活用しながら、彩りのある木漏れ日さす雑木林をつくる」この基本方針に則り「光陽性のある落葉広葉樹を植え令和の新しい雑木林をつくるために新しい樹種をも持ち込む」を再確認(満場一致)。2023 年の植樹祭でクロモジを 2~3 本植栽する。クロモジ=樹形:手を入れなくとも、2m 程度卵型樹形になる葉と花のつき方・樹皮・平安時代の歯ブラシ・現代でもカンフル精油による殺菌効果のために爪楊枝として利用(浄化センター上跡地・23 年植栽木=圃場桜 5 +モミジ 2 + ニワトコ 1 + マユミ 1 + ムラサキシキブ 3 + ヒイラギなどの植栽を計画) < 過去にユリノキ・カツラ・コブシ・鎌倉櫻・アセビ・ミツマタなどの植栽計画が論議された>

「環境保全委員会」2023 年1月 12 日 まとめ(案) ②なぜ外から新たな樹を持ち込む必要があるのか ③鎌倉に 自生していても広町には自生していないものがある<省略版・詳細添付「「環境保全②③」全3ページ照覧>

※1954 年 70 年前: 国の拡大造林政策: S29 年から約30 年間継続・広町では約20ha にスギヒノキを植林 <3000 本/1 へクタール植林、約5 万本を植林・持ち込み開始> ※1978 年・S53´**約50 年前: ウルシ木を80 本植林(土地所有者漆職人・持ち込み) ※1990 年・H2 約30 年前?: 小竹ケ谷入りロ・トウネズミモチ約10 本植栽・持ち込み(1970 年・S45 年・約50 年前=光化学) ※2010 年・H22´**<シラカシ50 本クヌギがトラスト財団より寄贈される・持ち込み>※ヤマサクラ・オオシマサクラ=挿し木を圃場育成≒55 本植林(環保委会・⑨苗木から)実践 ※2013 年・市が広場にヤマボウシ・ニシキギ等の持ち込み <緑地に有用林として木々が持ち込まれた ✓ <詳述は「2022 年8/1 生態系」全9ページ・希望者に配信>

もともと広町の木は・固有の在来種的な広町の樹林は・昔のまま=ない・単に人手が入らない緑地であった 『環境保委会まとめ:⑧』 このエリアをどういう所に基本的な考え? 緑地グランドデザインは既に構想などにより作成

【基本理念】・・人と自然織り成す良好な自然空間の保全 創出 【基本コンセプト】 古都鎌倉の緑の継承し、人と自然が織多様で良好な都市林の保全創出をめざす (2) 基本方針及び都市林としての環境目標 【基本方針】①自然環境の多様性の保全 ②貴重種・注目種の保全 ④広町らしさの活用 地形・水・植生等の組み合わせにより現在成立し、谷戸と樹林を一つの単位として捉えつつ、多様な自然環境が総体として「フクロウ等の棲息する緑地としてのまとまりを安定した生態系」が将来にわたって持続できる環境を目標 市民の会定款 第3条・・・次のような市民の願いを反映させる事業を行い、後世に伝えることを目的 (1)優れた自然環境、生き物とのふれあいの場にしたい (2)子どもたちに自然のすばらしさを知ってもらう場にしたい・・・青少年の環境教育を支援する場所づくりを推進する第5条 (1)・・自然環境を保全する取り組みを行い、生物多様性の重要性を広く啓発する事業

【資料 2】※「8/1 生態系」 『環境保委会まとめ:②・③』 新たな木をなぜ持ち込むか その $2 \cdot$ 放置すると</mark>自然はどのようになるか*単一的な植物相に変化する=生物多様性が失われる その $3 \cdot$ 生物多様性をつくるには・「基本構想・計画」記載(植林・更新・捕植)の手法→多様性のある雑木林を創出*創出例・オニシバリ台地(木質化葛ツル・カナムグラ・アズマネザサ・セイタカアワダチソウなどで覆われた) その $5 \cdot$ 里山の魅力とは・樹の不思議さを知る



